



日本赤十字社奈良県支部
事務局長（2025年～）

乾 新弥さん



◆皆さまへ◆

日頃より、多大なるご支援、ご協力を賜りまして、御礼を申し上げます。
まだまだ、日赤における県支部は、どうあるべきかを自問する日々ですが、「苦しんでいる人を助けたい」という皆様の思いを、少しでも具現化できるよう取り組みたいと考えております。
どうぞ、よろしくお願ひいたします。

★入社前の日赤のイメージは？★

前職は、奈良県庁に勤めていましたが、一部の部署を除いて、県と日赤が日常的に連携する事はなく、お恥ずかしいのですが、「名前はよく知っているけど、献血以外、何をしているのか、詳しく知らないかった」です。ただ、災害医療を担当していた平成23年に東日本大震災が発生し、県はDMATを派遣しましたが、日赤も救護班を派遣されたことを覚えています。やはり、日赤は「災害時に被災者を支援する組織」という印象でした。



☆入社してどうですか？☆

平時でも、非常に幅広い活動をされていること、そして何より、その活動が会費・寄付で賄われ、また、ボランティアの方々によって行われていることに驚きました。

日赤も役所も目指すところ(苦しんでいる人を救う=福祉の向上)は同じかと思いますが、両者のアプローチ手法が、ずいぶん違うと思っています。

♥入社して印象に残っていること♥

4月から様々な活動に参加させていただきましたが、個々の印象というより、協力いただいている方々の「赤十字に対する思い」や「ホスピタリティ」が素晴らしい、感心するとともに、頭が下がる思いでいます。

役所にいると、県庁だけかもしれません、「役所のためなら、役所が言うなら、協力しよう」という人は、なかなか会いませんでした。日赤が、これほど多くの方々からご支援をいただいていることに、ありがたいと思うと同時に、役所OBとして、ちょっと嫉妬心が、ありますね。(笑)

◇今後の抱負!!◇

日赤は、2年後(2027年)に創立150周年を迎ますが、さらにその先を見据えた「日赤の将来」について、全社をあげて議論しているところです。

奈良県には、赤十字病院がなく、支部職員も9名と少ないですが、赤十字の理念を堅持しながらも今日的な人道課題に対応できるよう、皆様のご意見を賜りながら、「日赤のためなら、日赤が言うなら、協力しよう」と、今後もご支援いただける組織であり続けられるよう、職員とともに努力したいと思っております。何卒、よろしくお願ひいたします。